

## 葛山幻海さん

[尺八生管師／虚無僧宗門尺八指南／尺八研究家／虚無僧尺八保存会を主宰]

数奇な運命に導かれて  
尺八を始めた

私が尺八と出会ったのは大学時代のこと。選択科目の和楽器で尺八をやることにしたところ、運命的なものを感じる出来事がありました。全く知らなかったのですが、人気曲の『瀧落』<sup>たきおち</sup>について書かれた本に先祖の名前が出てきたのです。「これはもう尺八をやるしかない」と思いました。

奈良・飛鳥時代、雅楽の楽器だった尺八はいったん廃れ、鎌倉時代に再び日本に入ってきました。そこに関わったのが私の先祖です。三代将軍の源実朝は芸術に造詣が深く、当時最も芸術文化が発展していた宋に葛山景倫<sup>かげとん</sup>を派遣しました。しかし、実朝暗殺の報を受け、途中で引き返し菩提を弔うために高野山で出家し、和歌山県の由良<sup>こうくじ</sup>に興国寺を建立。高野山で仲の良かった法燈国師<sup>ほっとうこくし</sup>を宋への渡航費を出資して送り出したことで、再び尺八が伝来しました。ちなみに法燈国師は醤油と味噌のもとになる金山寺味噌を伝えた人でもあります。

西洋の音楽とは違う日本の  
伝統音楽の魅力に触れてほしい

尺八に惹かれたのは、高校時代の留学体験も影響していると思います。日本には独特の魅力があるのに、海外の人たちに「日本の文化はすごいん

だぞっ」と自慢できなかつた。私はそれをとても恥ずかしいと思いました。

今はスマホ一つで何でも調べられます。便利ですが、本当に知るにはやはり体験してみることが大切だと思います。

尺八は単純な楽器ですが、吹いてみると、音を出すのは難しいことがわかります。そうすると、「演奏者はなぜこんなすごいことができるのか」と、尺八という楽器に対する印象も変わるでしょう。

尺八の穴は約11ミリと大きいものです。それを指で押さえて演奏しますが、わずかに開けるようにすると、うまく音を出せなかったり、逆に味のある音が出たりもします。不便であると同時に、自由度が高く、演奏者の工夫次第でいろいろな表現ができるのは尺八の面白いところ。そんな尺八の演奏を聞いたり、触れたりし、日本には独特の文化があることを知って、日本人として誇りをもってほしいと思います。

そもそも西洋と日本では宗教観が違い、それが音楽にも反映されています。よい例が天井から降り注ぐ教会の鐘の音と、地を這うような梵鐘の音です。できるだけ澄んだ音を目指す一神教の西洋の音に対して、多神教の日本は伝統的に余計な音を好みます。

実際、尺八の場合だと、わざとかすれた音を出すサワリ音（風切り音などのノイズ）や指を打ったときの竹の音があります。そうした一見無駄なものを排除せ

ず、楽しみ、面白味を感じられるのも日本人の独特の感性で魅力的な文化なのだと思います。

ちょっとした一言が大きな影響を  
与えることがある

音楽の指導では擬音を使って感覚的に話す人もいれば、技巧や科学的な理由を説明して教える人もいます。私は後者が合うほうで、なぜ音が出るののを知りたいと思いました。アインシュタインは根源がわからないと納得できなかったと言います。同じように、理屈がわからないと前に進めない子もいます。そういう子には、きちんと説明してあげてもらえたらと思います。

興味のもち方は子どもによって違います。例えば、音楽と歴史や宗教を結びつけることもできるし、音楽的表現は詩に近いものがあるので国語と、音の伝わり方なら理科と関連づけることもできます。先生方には教科の枠を超えていろいろなことを織り交ぜて話してもらいたいと思います。

私は小学校のとき、先生に作文をほめられたのを覚えています。おかげで今も文章を書くことに抵抗感がありません。ですから、ほめるのでも注意するのでも、ちょっとした一言がその子の人生に良くも悪くも大きな影響を与える可能性があるということを忘れないでほしいと思います。

## PROFILE

かつらやまげんかい ● 1983年大阪府生まれ。大阪芸術大学音楽学科音楽工学コース卒業。良い材料だけを使用する昔ながらの製法にこだわり、古管尺八の修復や研究を通して失われた技法を復活させるほか、古典本曲などの参考音源や貴重な古書・楽譜の復刊を通し、尺八普及に尽力。著書は「まるごと尺八の本」「虚無僧宗禁集」。HP:「尺八修理工房幻海」(<http://shakuhachi-genkai.com>)

和楽器に触れ、体験することで  
日本の伝統文化の魅力を知ってほしい